

介護老人保健施設オアシス21 療養棟3階(認知専門棟)

症 例 概 要 入所者氏名：女性 80歳 要介護度 4

病名：レビー小体型認知症 第12腰椎圧迫骨折 第1腰椎圧迫骨折 踵部潰瘍

右変形股関節症 変形性腰椎症 腎機能低下 骨粗鬆症

経過：サ高住で生活されていたが、転倒して腰部を打撲し第1腰椎圧迫骨折と診断。

保存的治療を受けるも痛みが強く、翌月より入院してダーメンコルセットを装着しながらリハビリを行い疼痛軽減したが、元の生活に戻れるほどADLが向上せず、リハビリ及び特養待機の目的で令和7年2月にオアシス21へ入所となる。

内 容

入所当初より、夜間の多弁・怒鳴り声・暴言が多く、「火は大丈夫だったか?」「4～5才くらいの子が火を焚いている。」等の幻覚妄想様の言動が聞かれ、薬物療法等を行っていましたが、易怒性・怒鳴り声が続く、「タンスの中の服はヨシコが持って行ったんだ!」「盗んでいくなんて酷い!」「このベッドはトラックで私が運んできたんだ!」等々・独語・大声・暴言が続きました。

余市で農家をされていた頃の話をする等して、辛うじて周囲との関係性を保たれていましたが、4月に入ってからでは介助や入室に対する拒否も増強し、職員に対する暴言も増え、職員に対しての暴力もみられるようになってしまいました。

ご本人の認知症ケアについて、多職種で集まり、レビー小体型認知症についての勉強会を開き、各職種でどのようなアプローチをすべきか考えヒントを探していた時、独語から「久しぶりに食べたいな・・・。」と聞かれる場面がありました。何を食べたいのかお聞きすると、『ホンコンやきそば』との返答。栄養科やST、他スタッフ間で相談しながらご本人の希望に沿って早速調理の過程からホンコンやきそばを一緒に作ろうとご本人に伝え、『ホンコンやきそば食べれるの?!』『嬉しい!ここで食べれると思わなかった!』と普段見ることのできない、満面の笑みを見せて喜んで頂けることができました。

また、農家だった時のことを思い出して頂こうと、小さな菜園を作り、水揚げや草取りなどの役割を作り、日課として活動時間もつくりました。

暴言や興奮状態が見られるときは、一人で静かな環境で過ごせるよう場面に応じたケアを行い、穏やかな表情が見られる時は職員とのコミュニケーション時間を作り、職員との信頼関係構築も図れる様取り

組んだ結果、最近では『いつも、夜仕事の時寝ないでいるんでしょ。無理すんでないよ。』『ありがとう。助かった。』と穏やかにお話頂ける姿も増えてきました。また、途中で中断することの多かったリハビリも、現在は集中して最後まで取り組まれることができるようになりました。

現在、以前のような大声・暴言は少しづつ減少しており、笑顔を見せてくれる時が増えました。

今回のケアは、私達職員も認知症ケアについて新たに学ぶ機会となり、困難な中でも多職種のチームで取り組んだことで、それぞれのやりがいと成長を感じることができる事例となりました。今後ご利用者の方の輝きの一日を大切に、親身な対応を心がけていきます。